

見える木, 魅せる木 ~木の内装と人の関わり~

最近の研究で、住宅内装に木材を使うことで住む人の心身に良い影響を及ぼしうることが徐々に明らかになってきています。さらに、昨年 10 月には、公共建築物への木材利用を促進する法律が施行され、今後、公共建築物をはじめとして様々な建築物への木材の利用が加速することが予想されています。ただし、住宅内装の木質仕上げを法的に推奨するという観点から鑑みると、住む人の感性に合った木の使い方を無視して、ただやみくもに内装に木材をたくさん使えばよいという、量的発想に陥る危険性も見え隠れします。本研究会では、住宅内装における木材の多少やデザイン、つまり「木材の見え方、見せ方」がヒトに与える影響について、最近の知見をワークショップ形式で皆さんと共有したいと思います。関心をお持ちの方々の多数のご参加をお待ちしています。なお、本会は、日本生理人類学会 Wood / Human Relations 研究部会、一般社団法人日本木材学会居住性研究会、社団法人日本木材加工技術協会木質仕上げ部会との共催で開催されます。

共 催：日本生理人類学会 Wood / Human Relations 研究部会

(社) 日本木材学会居住性研究会

(社) 日本木材加工技術協会木質仕上げ部会

日 時：3 月 17 日 (木) 14:00~17:30 (予定)

会 場：京都大学農学部総合館 (第 61 回日本木材学会大会会場) 内

内 容：

「京都の木で建てる・京都の木で魅せる」 南 宗和 ((株)里仁舎)

「木材量とデザインの差異はヒトに影響するか」 恒次祐子 ((独)森林総合研究所)

「木質空間はストレス軽減に寄与するか」 小林大介(横浜国立大学教育人間科学部)

「木材の誘目性：木が目立つことはいいことか」 仲村匡司 (京都大学農学研究科)

アイマークレコーディングの実演

参加費：無料

資料代：1,000 円 (予定)

連絡先：参加を希望される方は、下記の幹事までお名前、ご所属、ご連絡先、(電話番号、メールアドレスなど) をご連絡ください。

小林大介 (横浜国立大学教育人間科学部) kobadai@ynu.ac.jp

森川 岳 ((独)森林総合研究所) tmorik@ffrpi.affrc.go.jp

仲村匡司 (京都大学農学研究科：日本木材学会居住性研究会代表幹事)

nakamasa@kais.kyoto-u.ac.jp